

II-2 考察とまとめ

(1) 研究仮説

本年の授業では、国語と数学において同じ事後アンケート項目を生徒に課した。その結果の違いを検討し、その原因を推察することで、来年度の課題を見つけられるであろう。

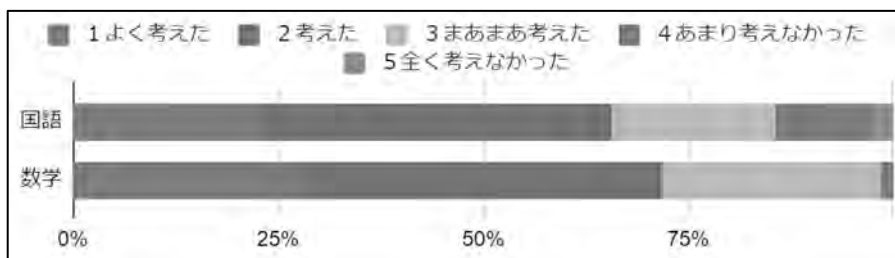
(2) 実践

ア 国語と数学のアンケート比較

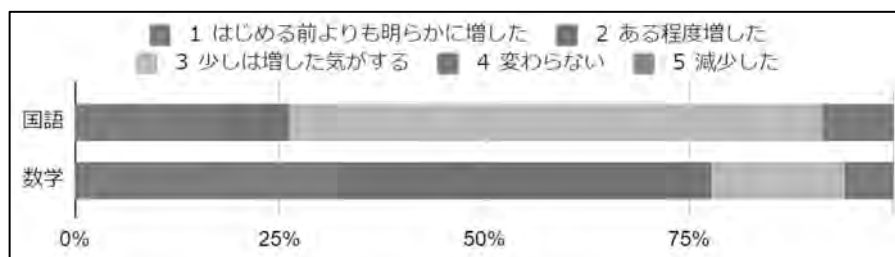
この授業を通じて、次のことはどれくらい増しましたか？

アンケート結果

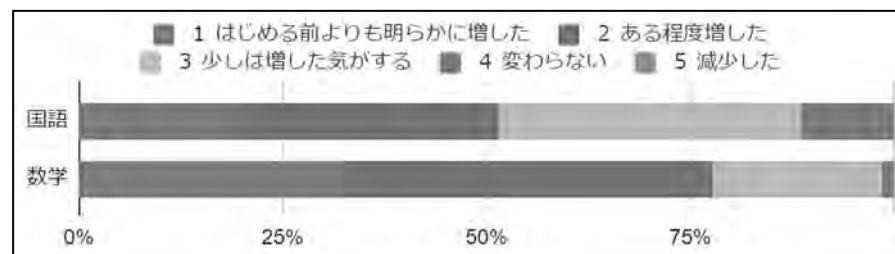
- ① この授業を通じて「足りない物事はなにかな？」と考えましたか？



- ② 「探究心(物事について、粘り強く、知識を深めたり、原因の解明に当たったりしようとする意志)」はどれくらい増しましたか？



- ③ 「問う力(足りないことに気づく力)」はどれくらい増しましたか？



イ 結果

- ① のグラフをみると、「1 よく考えた」に大きな違いはなく、「1 よく考えた」と「2 考えた」の和をみても大きな違いは見られない。
- ② のグラフをみると、「1 よく考えた」では数学のほうが大きく、「1 よく考えた」と「2 考えた」の和を見ると数学は国語に対して3倍近く大きい。
- ③ のグラフをみると、「1 よく考えた」では数学のほうが大きく、「1 よく考えた」と「2 考えた」の和をみても数学のほうが大きい。

ウ 考察

異なる教科で比較することは慎重に考察する必要がある。教材や目的が異なるためである。一方、同じ質問をして異なる結果が出たことは考察に値するとおもわれる。ここで2つの授業で明らかに異なる点は「数学では問題づくりをさせ、国語ではそれがなかった」ことである。それが②③における生徒の「増した」割合に影響を与えたという仮説を持つことができる。

(3) 今後の課題

同じ教科で「問題づくり」の有無の授業を行い、生徒にどのような影響の違いが出るか確認したい。